

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

令和4年度一般選抜

入学試験問題

国 語

(100点 60分)

注 意 事 項

1. 解答用紙には解答欄以外に記入欄があるので、監督者の指示に従って、解答用紙に正しくマークしなさい。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
3. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問に対して③と解答する場合は、次の(例)のように問10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

問	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

4. 問題冊子の余白等は適宜使用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
5. 不正行為について
 - (1) 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - (2) 不正行為に見えるような行為が見受けられたら場合は、監督者がカードを用いて注意します。
 - (3) 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。なお、設問の都合で本文に①～⑬の番号を付してある。（配点50点）

① 価値観が多様化していても、共通理解が可能な最低限の善悪の基準、倫理的な価値観は存在します。ですから、自分なりの価値観、生き方の自由は認められるし、共通の倫理的価値観に沿って行動すれば、誰であれ承認してくれるでしょう。つまり、自由と承認は必ず対立するわけではなく、自由に生きながらも承認が得られる可能性があるのは確かなのです。

② にもかかわらず、私たちの社会には強い承認不安に苦しんでいる人がたくさんいます。それはいったいなぜなのでしょうか？

③ ひとつは、他人に対しても「存在の承認」を与えるべきだ、という感度が十分にaツチカわれていない、という問題があるような気がします。自分とは異なる立場、価値観、考え方の人間を受け入れる姿勢が弱いため、身近な人間や同じ価値観の集団とだけつきあい、自由と承認の可能性を狭めているのです。

④ では、なぜA「存在の承認」の感度が育ちにくいのか――。

⑤ 家庭環境について考えると、親が子どもの感情を共感的に受けとめず、(1) 存在を認めなければ、そして過度の期待や要求を繰り返していれば、承認不安の強い子どもになるのも無理はありません。親和的承認がbケツジヨすれば、「行為の承認」ばかりにこだわるようになり、「存在の承認」の大切さを経験できないのです。

⑥ 親が愛情を注ぎ、親和的承認を満たしているとしても、学校で「存在の承認」の感度を育まなければ十分とは言えません。多様な人たちと出会い、お互いの違いを認め合う、という経験が少なければ、家族や身近な人に対しては甘く、親和的承認を与えがちであっても、見知らぬ人に対しては厳しく、自分たちとは異なる立場や出自、生き方には否定的になるかもしれないのです。

7 いまの学校は、そのような経験を積む機会が乏しいと言わざるを得ません。

8 不合理な校則、**(2)**な指導、競争の意識など、学校は「行為の承認」ばかり重視する傾向があり、同年齢での集団行動が多いため、子ども同士の同調圧力を高めている面もあります。一方、子どもも承認不安があるため、学校のクラスではグループ化し、自分の居場所を守ろうとします。同じグループでなければ遊ばない、グループの人間に合わせる、といった傾向が。ケンチヨになり、自分とは異なる人間を認めるところか、無視したり、^dハイジヨする傾向さえ生まれているのです。

9 このように、「存在の承認」の感度が育まれないため、自分とは異なる立場やライフスタイル、価値観の人間とは付き合わない、という人が増えています。彼らも自分とは異なる境遇の人々に対して、法的な自由は認めているのですが、心の奥底ではその存在を認めておらず、共感したり、わかりあおうとしないのです。その結果、お互いに「存在の承認」の^eハバを限定してしまうため、身近な人から「行為の承認」を得ることだけが重要になってきます。つまり、それだけ承認不安が大きくなってしまふ、ということなのです。

10 こうして、多くの人々が承認不安に悩まされ、周囲の顔色をうかがったり、過度に同調するなど、過去の行動パターンを繰り返してしまふます。強い承認不安ゆえに自由を手放し、自己不全感に苦しんでいるのです。それは社会共通の価値観が^fホウカイし、価値観が多様化したせいもあります。この多様化は自由に生きる上で欠かせません。

11 大事なのは、「存在の承認」を与え合い、価値観が異なっても認め合えるような社会を築くことなのです。

12 グローバル化、高齢化が^gシンテンし、外国人、高齢者、患者、障害者が増えつつある現代において、多様な価値観、多様な境遇の人々との共生は、もはや避けがたい状況にあり、その分、承認不安も強くなっています。^B特に高齢者、患者、障害者といった人たちは、もともと強い承認不安を抱えやすい面があります。なぜなら、病気や事故、災害、高齢化によって、あるいは生まれつきの病気、障害によって、自己価値

の承認を満たす機会が著しく奪われている場合が多いからです。

13 病気になったり、災害や事故で障害者になると、それまでできていたことができなくなり、生活の変化を「ヨギなくされ、大きな不安に」オソわれます。職場で重要な仕事を任されていたり、子どもを育て、親としての責任をはたしているなど、人はそれぞれ大事な役割を担い、その責任をはたすことで周囲の承認を得ています。その役割を奪われてしまえば、周囲の評価も変わり、強い自己価値の喪失感、承認不安を抱かざるを得ないのです。

14 若くして病気になったり、事故や災害に遭うことがなくても、誰もが高齢になれば、仕事ができなくなったり、親としての役割を担えなくなります。そして、仕事や身体を自由を失い、自己価値が失われる不安が大きくなっていくのです。

15 すでに人口減少社会に突入した日本の社会は、膨大な数の高齢者を抱えており、価値観やライフスタイルの急速な変化にともなう世代間ギャップが生じています。若い人、中年層、高齢者との間における価値観の対立は、今後ますます「シンコク」になるでしょう。そのため、お互いの価値観、生き方を認め合わなければ、承認不安がますます強くなるばかりです。

16 また、高齢者が増えるということは、当然、病気の人、障害者の割合も増加するということです。さらに言えば、若い労働力がどんどん不足していくこともあり、今後、かなりの数の外国人労働者が日本で生活することになります。

17 このように、日本はどんどん (3) の集う社会になりつつあり、自分とは異なる考え方や生き方を相互に認め合うことは、もはや避けられない状況にあります。異なった価値観、生き方、ライフスタイルの人たちと協力し合って生きていくこと、お互いの自由を承認し、「存在の承認」を保証し合うことが、どうしても必要なのです。

山竹伸二『ひとはなぜ「認められたい」のか——承認不安を生きる知恵』による

問1 傍線部 a～j の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は

1

く

10

a ツチカわれ

1

- ① 蚊が病気をバイカイする
- ② 病原菌をバイヨウする
- ③ 興味がバイカする
- ④ 夏物をトクバイする
- ⑤ 土地をバイシユウする

b ケツジヨ

2

- ① ありのままにジヨジュツする
- ② ジヨレツをつける
- ③ トツジヨとして現れる
- ④ 弊害をジヨチヨウする
- ⑤ ジヨコウ運輸を心がける

c ケンチヨ

3

- ① ハケンをかけて争う
- ② ケンキヨに反省する
- ③ ケンアン事項を抱えている
- ④ ケンジツな生き方をする
- ⑤ 自己ケンジ欲が強い

d ハイジヨ

4

- ① お手をハイシヤクします
- ② 薬剤をハイゴウする
- ③ 敵のハイゴに回る
- ④ ハイガス規制を行う
- ⑤ 赤字路線をハイシする

e
ハバ

5

- ① ゼンブク|の信頼を置く
- ② 都内にセンブク|していた
- ③ フク|アンを示した
- ④ 災害からフツコウ|する
- ⑤ 三時にイツブク|しよう

g
シン|テン

7

- ① 絵画の|コテン|を開く
- ② プロに|テン|コウする
- ③ 部員|の|テン|コをとる
- ④ |テン|プの才に恵まれる
- ⑤ |テン|ガな舞を演じる

f
ホウ|カイ

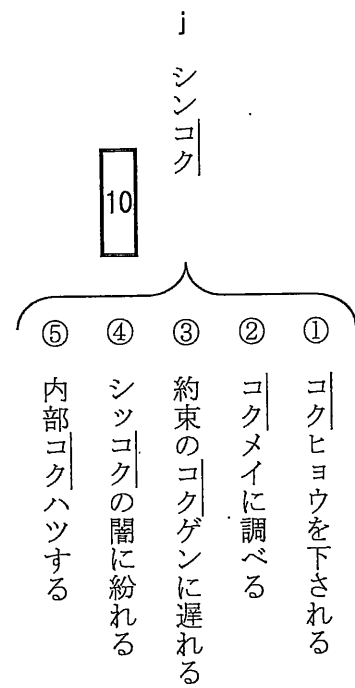
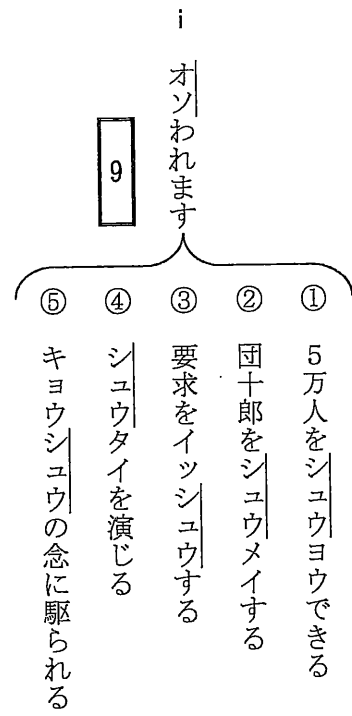
6

- ① 勝つ見込みは|カイ|ムだ
- ② |カイ|いな出来事が起こる
- ③ 男子の|ホン|カイ|を遂げる
- ④ |ハ|カイ|的な言動が多い
- ⑤ 子どもを|ユウ|カイ|する

h
ヨ|ギ

8

- ① 各自|テ|キ|ギ|に休みを取る
- ② |モ|ギ|試験を受けに行く
- ③ |ギ|セイ|を払ってでも行う
- ④ 今さら|言|えた|ギ|リ|ではない
- ⑤ 自|分|の|リ|ユウ|ギ|で行う



問2 空欄(1)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① ごく普通の
- ② ありのままの
- ③ もっともらしい
- ④ かわいい
- ⑤ 弱い

問3 空欄(2)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 虚無的
- ② 道德的
- ③ 画期的
- ④ 教条的
- ⑤ 独創的

問4 空欄(3)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 劣等な人々
- ② いわくありげな人々
- ③ 多様な人々
- ④ 個性的な人々
- ⑤ 見知らぬ人々

問5 傍線部A『存在の承認』の感度が育ちに「くい」とあるが、この結果どのようなことが起こるのか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 親から愛情を注がれ、親和的承認を得ている人を、うらやましく思うようになっていく。
- ② 学校で「行為の承認」と「存在の承認」との両方の感度を育てる必要性が出てきている。
- ③ 大人が認めてくれないので、子ども同士が「存在の承認」を与え合うことになっている。
- ④ 承認不安が強くなってしまう、自分とは価値観が異なる人を認めようとしなくなっている。
- ⑤ 価値観が多様化した中で、社会共通の価値観を作ることができなくなってしまう。

問6 傍線部B「特に高齢者、患者、障害者といった人たちは、もともと強い承認不安を抱えやすい面があります」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 15。

- ① 周囲の人たちから、「存在の承認」を与えてもらったとしても、「行為の承認」を得ることができないから。
- ② 社会構造が変わり、自分に与えられていた仕事や役割を、若者や健康な人や外国人に奪われることになるから。
- ③ 仕事や身体が思うようにならず、自己の価値を他人からも自分でも認めることができなくなってしまいうから。
- ④ 他者のことはもともと理解できず、世代間のギャップ、健全者と障害者のギャップを埋めることが難しいから。
- ⑤ いままで一人でできていたことが他人に助けしてもらわなければならず、自尊心が傷つけられてしまいうから。

問7 本文を前半部分と後半部分に分けるとすれば、どの段落から後半になるのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 16。

- ① 8段落
- ② 9段落
- ③ 10段落
- ④ 11段落
- ⑤ 12段落

問8 筆者の考えと合致するものはどれか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

17

。

- ① グローバル化が進んでいる現代社会においては、日本人と外国人の生活様式を融合した生き方を模索する必要がある。
- ② 人口減少社会に入っている現代社会においては、高齢者や障害者は大切な労働源として評価し直さなければならない。
- ③ 価値観が異なった人たちと共生しなければならない現代社会においては、寛容に他者に同化していかねばならない。
- ④ 承認不安を強く持っている現代社会においては、気の合った、似通った者が集まり生きていくに越したことはない。
- ⑤ 多様化に向かう現代社会においては、家庭や学校で子どもたちが存在の承認を与え合うような社会が求められている。

第2問 次の文章は、川崎彰彦の小説「河鹿」の一節である。「ぼく」は下関から、父が院長を務める陸軍病院のある滋賀県八日市市御園村の

御園国民学校に転入学してきたが、担任の荒谷先生から連日、殴られていた。これを読んで、後の問い（問1～12）に答えよ。

（配点50点）

連日、殴られ、ことに「軍人の子があ！」という罵声を浴びせられるのは嫌だったけれど、兵隊さんも毎日殴られているんだ、それに、いまは大戦争の真つ最中なんだ、と思えば我慢できた。A ユーウツ（漢字で書くともむつかしい、この感情）にぼくが捉えられたのは、同姓が多く、だから先生も孝夫^{たかお}、忠次^{ただつぐ}、孫兵衛^{そんべえ}などと名前で呼びわけている村の学校で、権崎^{かばさき}と姓を呼ばれるごく少数派であるということはやはり居心地がわるいことだった。ぼくはさつそくカバという渾名^{あだな}をつけられた。それに、ここでは町もの、余所^{よそ}もんであることはあつた。それに山口県の言葉と関西弁とはアクセントがおおむね逆になることも嘖^{ちち}われる原因になった。下関では「イヌ」「ウマ」と後の音に力点が置かれるのに、ここでは「イヌ」「ウマ」と頭に力点がくるのだ。個々の言葉のちがいもある。下関では家のことを内という場合がある。「ぼくのうち」というぐあいに。あるとき級友から「こつちではウチというのはおなごが自分のことをいう言葉やさかい以後、気をつけろ」と

(2) たしなめられた。

やがて二学期の終業式の日、荒谷先生はクラスの全員に冬休みの宿題として糞製品^{わら}二十点をこしらえてくることを命じた。非農家のぼくは青ざめる思いで、先生は、ぼくが憎くて、こんな意地悪な宿題を出すんだ、とヒガミつぽく、そう考えたほどだった。その日、警戒警報だったかが出て、隊伍^{たい}を組んでの下校時、ぼくがよほどニューウツそうな顔をしていたのだろう。林田通学班長の蒔田^{まきた}重四郎という高等科二年の、すこしからだが不自由で足を引きずって歩く、やさしい感じの上級生がぼくを脇へ呼んで「権崎、何か心配なことでもあるのか」と声をかけてくれた。

ぼくが冬休みの宿題のことで困っていると告げると重四郎さんは、荒谷先生にはシボラレタうらみでもあるようで、

「荒谷やるう？　むちゃあ言いよんな、われ家、非農家やし、ほんなもんでけるわけないやんなあ…よっしゃわいがやったる」

と言ってくれた。

ぼくは重四郎さんの親切に、B涙が出そうだった。

冬休みにはいつて三日目だったか、夜、重四郎さんが東出のわが家を訪れ、藁ぞうり十八足を置いて帰った。先生に課せられた点数に二点足りないので、二足ほどつくってみるか、という勧めかもしれない、とぼくは感じた。それに農家そだちの重四郎さんがつくってくれたのをそのまま提出すれば、荒谷先生にはぼくの作品でないことが一目でわかってしまう。せめて一、二足でも自作を加えることで、努力のほどを認めてもらおう、そんなC打算がぼくに働いた。

同じ東出の、わが家からすこし離れたところに、集落を貫流する大川にかかった石橋がある。その橋を渡ったとつっきの農家が同級生・内村克二の家だった。ぼくは克二に藁ぞうりつくりを教えてください、と頼み、克二は(3)ニヤニヤ笑いながら引き受けてくれた。

約束した日、克二の家を訪ねると、脇に牛部屋のある入り口から土間づたいに奥へ通された。奥は黒光りするくどさん（へつつい）もいくつか並ぶ広い土間で、そこが内村家の藁仕事の場所らしかつた。行ってみて驚いたのは克二の両親である義太郎さん夫妻、長兄の国太郎、それに、おじいさん、おばあさんまでがまるい棕櫚の敷物を敷いてニコニコしてぼくを迎えたことだった。たぶん院長はん家のぼんが、ぞうりつくりにくるというので娯楽のような期待から集まっているものだろう。克二とぼくはむしろに並んで坐った。指導者は当主の義太郎さんだった。

まず藁打ちから始まった。ずんぐりむっくりした木槌を振るって藁束を打ちほぐす。次に縄ない。一つかみの藁を左足の親指と第二指の間に挟み、藁の根の部分は親指の腹で抑えるようにしておいて、藁の、上に出た部分を二梳きに分け、両掌にペツ、ペツとつばなどかけてから、掌

をこすり合わせるように、よじり合わせてゆく。この初歩的な作業だけで掌に痛みを覚え、豆のできそうな予感に泣きたくなる始末だったけれども、不細工でもなんでも、とにかく物の端的な手ざわり。質感。それに素朴な加工がくわわって、何か創造される面白さ。そんなものをしだいに感じてきて、知らず識らず、せつせと、祈禱するように、頭上までないあげているのだった。「きょうは、このくらいにしておくか」と義太郎さんが言ったけれど、ぼくは「ぞうりづくりの基本だけでも習いたい」と申しでた。克二も、兄の国太郎さんもニヤニヤ笑いながらぼくの顔をみていた。

藁ぞうりをつくる工程は図示でもしないかぎり、ちよつと説明しがたい。言葉では、とうてい無理だが、なんとかかやってみる。

さきほど、ないあげた縄の一本を左足指と左手指に掛けて、ぞうりの外枠と中芯二本が形成されるようにする。縄は手前に引つ張られて四本の縦軸をなしている。その縦軸に右から二、三本ずつの藁を順次、上越え、下くぐりをさせながら編みこんでゆく。足裏が接触するぞうりの床地だ、こうしてできてゆく。

ぼくも傍らの克二の手つきの見よう見まねで、この工程の記述同様、(4) 悪戦苦闘して、なんとか一足づくりあげたが、克二と国太郎さんはニヤニヤではなくガラガラ笑い、それに義太郎さんが「アキぼんのは馬の顎がはずれたみたいだなあ」と⁽⁵⁾辛辣な批評をしたものだから土間じゅう、総ガラガラになり、D ぼくは顔を熱くしてうつむいていた。

年の暮れ、木村さんの家でぼくの家の分もいっしょに餅つきをしてくれることになった。木村さんは、母とぼくが初めてこの集落に来た雪の日、立石のバス停に出迎えてくれた役場の吏員で、家は同じ東出でも、集落の中央にある香林寺の近所だった。これまで山口県特有の足踏み式杵による餅つきしか知らなかったぼくには、当主の⁽⁶⁾杵次郎さんとじいさんの二本杵と杵次郎さんの奥さんの白どりの三拍子で進行する餅つきは物珍しく、曲芸をみているように⁽⁶⁾スリルがあった。ぼくは腕力が弱いし人なみはずれて不器用だ。だから杵次郎さんが、

「ぼんも杵を持って三本杵でつくか」と誘ってくれたとき、

「そんな曲芸のようなことはできません」と 7。本次郎さんは、

「曲芸ちゆうことはなかるう」と笑った。

この日、湯気の出るつきたての餅をたつぷりすりおろした大根おろしにつけて食べるおろし餅というのを生まれて初めてごちそうになり、涙が出そうなほど感動した。世の中にこんなうまい食物があるのか、と思い、できることなら病院にいるにいちちゃんにも食べさせてやりたい、と思った。

問1 空欄(1)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 侮蔑 ② 憧憬 ③ 風刺 ④ 憐憫 れんぴん ⑤ 追従

問2 傍線部(2)「たしなめられた」の意味として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 丁寧に教えて導いてくれた ② 間違っていると指摘された ③ 何も知らないことを馬鹿にされた
④ コンコンと説教された ⑤ 穏やかに注意された

問3 傍線部(3)「ニヤニヤ」とあるが、この言葉の説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 直喩
- ② 隠喩
- ③ 擬態語
- ④ 擬人法
- ⑤ 反語

問4 空欄(4)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① しどろもどろに
- ② 仰々しく
- ③ 這う這うの体ほで
- ④ いけしやあしやあと
- ⑤ くんずほぐれつ

問5 傍線部(5)「辛辣な」の意味として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 呆あきれて言葉に詰まる
- ② 非常に馬鹿にした
- ③ きわめて厳しい
- ④ 大層でおおげさな
- ⑤ ポイントを衝いた

問6 傍線部(6)「スリルがあった」の意味として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① そわそわするものがあった
- ② たじたじするものがあった
- ③ わなわなするものがあった
- ④ さむざむとするものがあった
- ⑤ ぞくぞくするものがあった

問7 空欄(7)に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 固守した
- ② 固辞した
- ③ 固執した
- ④ 固着した
- ⑤ 固定した

問8 傍線部A「ユーウツ」とあるが、「ぼく」はなぜこのような気持ちに捉えられたのか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 自分の名字が馬鹿にされ、笑われていることが分かって、悲しくなっていたから。
- ② 村の者と町の者とは言葉遣いが異なっており、田舎に来たんだと実感したから。
- ③ 周囲の者と自分が何かにつけて異なっており、疎外されていると感じていたから。
- ④ 担任の先生の前に対する態度が、他の生徒とは違い、屈辱感を覚えていたから。
- ⑤ みんなと同じ振る舞いをしなくてはならないことに、窮屈な思いをしていたから。

問9 傍線部B「涙が出そうだった」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

26

。

- ① 重四郎さんは身体が不自由であるのに、班長の任務を一生懸命果たそうと、自分に声をかけてくれたから。
- ② 薫製品を二十点なんてつくれないと思いついて自分に重四郎さんが、救いの手を差し伸べてくれたから。
- ③ 級友のいじめだけでなく、荒谷先生の暴力にも困っていた自分の思いを、重四郎さんが分かってくれたから。
- ④ 荒谷先生に自分と同じように暴力を振るわれた経験のある重四郎さんが、自分に哀れみをかけてくれたから。
- ⑤ 宿題ができず荒谷先生に殴られると思っていたときに、重四郎さんが自分も殴られたと教えてくれたから。

問10 傍線部C「打算がぼくに働いた」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

27

。

- ① 人につくってもらったものだけではなく自分も頑張ったことが、先生に伝わればよいと計算したということ。
- ② 冬休みの宿題を一生懸命に頑張ったということだけは、先生も分かってくれるだろうと期待したということ。
- ③ 非農家である自分が、そもそも藁ぞうりなんかつくれるはずがないことを先生に対して抗議したということ。
- ④ 自分の代わりに重四郎さんが藁ぞうりをつくったことを、先生に見抜かれてはまずいと思ったということ。
- ⑤ 努力してはじめてつくった藁ぞうりにしてはうまくできていることを、認めてもらおうと思ったということ。

問 11 傍線部D「ぼくは顔を熱くしてうつむいていた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 初めてつくった蕨ぞうりを見せると、みんなに冷やかに笑われたから。
- ② 蕨ぞうりづくりに躍起になる姿を、みんなに声を出して笑われたから。
- ③ 自分を守ってくれると思っていた師匠の義太郎さんにあざ笑われたから。
- ④ 院長の息子が蕨ぞうりをつくれるはずがないと、せせら笑われたから。
- ⑤ 何とかつくりあげた蕨ぞうりをみんなにあげつびろげに笑われたから。

問 12 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 初めてつくった蕨ぞうりであったが、案外うまくできあがっており、ぼくはすごく満悦であった。
- ② 勉強ばかりしているぼくに、そう簡単に蕨ぞうりをつくれるはずがないと、克二は高をくくっていた。
- ③ 山口県から関西地方に転校してきたぼくは、誰とも打ち解けることができず、ひとり孤独であった。
- ④ 内村家の人たちは、院長の息子が蕨ぞうりづくりを教えてくれとやってきたことを受け入れていた。
- ⑤ 担任の荒谷先生は、ぼくに意地悪な冬休みの宿題を出して、一度懲らしめてやろうと考えていた。

